

令和5年度 第1回豊田市商業振興委員会

【日 時】 令和5年5月15日（月）午後2時から

【場 所】 豊田市役所南庁舎 南51会議室

【出席者】 <委員>

脇田 弘久〔愛知学院大学商学部 教授〕
松永 郁也〔豊田商工会議所 常議員〕
井口 貴視〔豊田信用金庫 中小企業診断士〕
元岡 征志〔シー・プロジェクト 代表中小企業診断士／社会福祉士〕
新田 都子〔高岡地域消費者グループ 代表〕
山本奈津子〔藤岡商工会 女性部 部長〕
山内由美子〔とよた下町おかみさん会 令和4年度会長〕
杉山 裕貴〔市民公募〕

(計8名)

<事務局>

西脇 委千弘〔豊田市産業部部長〕
脇迫 博文〔豊田市産業部商工振興室長〕
酒井 一裕〔豊田市産業部商業観光課課長〕
柴田 優貴〔豊田市産業部商業観光課副課長〕
内川 哲雄〔豊田市産業部商業観光課担当長〕
谷口 元〔豊田市産業部商業観光課担当長〕
長谷川 拓海〔豊田市産業部商業観光課主事〕

【欠席者】 なし

【傍聴者】 なし

【次第】

- 1 委嘱状交付
- 2 委員紹介・あいさつ
- 3 開会
- 4 産業部長あいさつ
- 5 委員長あいさつ
- 6 副委員長の指名

- 7 事務局紹介
- 8 本日の審議スケジュール等について
- 9 商業振興施策の概要について
- 10 議事
 - (1) 商店街活性化計画の中間報告について
 - (2) 商店街活性化計画の中間報告及び計画変更について
- 11 その他
 - 令和5年度 商業振興委員会開催予定について

【会議録（要約）】

10 議事

- (1) 商店街活性化計画の中間報告について

①西町商店街

西町商店街から説明を受け、委員から意見を聴取した

委員

ホームページ・リニューアル・更新事業について、先日ホームページを拝見したが、随分更新されていなかった。商店街の催しなどについて掲載されておらず、商店街の売りを感じられないホームページである。個店の紹介はあるが、何か楽しい事があるかもしれないという期待が感じられない。プロのデザイナーが作るようなクオリティでなくても良いので、商店街の活動の紹介や方針を掲載するべき。

西町商店街

理事の私たちもホームページについて、ご指摘いただいたような問題意識を持っている。来街者に見ていただけるようなホームページを作っていきたい。

委員

私も商店街の理事をやっているので、この3年間はコロナでなかなか活動出来なかったということはよくわかる。

商店街として、コロナの影響による店舗数の変化は把握できているか。今後、活動していくにあたっては、会員の状況も良く踏まえながら事業を展開していく事が非常に大事なのではと思う。今年度は、市から商品券発行に対する支援がある様なので、上手く活用してほしい。

委員

事業の中止の理由にコロナを挙げていたが、令和4年度は豊田市内でも様々なイベントが再開された1年であった。そのなかで、事業の中止という判断に至った理由をもう少し詳細に聞かせてほしい。

西町商店街

計画に挙げている事業を実施するため、各理事を通して組合員の方に打診した。しかし、高齢の店主が多く、事業の実施に消極的であったように感じる。理事としても、消極的な意見が多いなかで事業の実施に踏み込めなかったというのが事業の中止を判断した理由である。

委員

まちの中心的な場所に位置する商店街であるので、今年度は事業が実施できるよう頑張ってもらいたい。

委員

既にホームページの話がいくつか出たが、商圈規模などを考慮し、適切な目標アクセス数を設定できると良い。

また、評価指標として、トップページへのアクセス数だけでなく、どのページに飛んで行ったのか、どの会社のページが見られているのか、どのくらい滞在しているかなどを分析の対象として、今後の参考にしてもらえたら良い。

(2) 商店街活性化計画の中間報告及び計画変更について

① 稲武商工会

稲武商工会から説明を受け、委員から意見を聴取した。

委員

今回の計画変更について、AIカメラによる来街者分析のほかにもどのような調査を行うのか補足してほしい。

稲武商工会

昨年度実施できなかった来街者の居住地調査を中心に行いたい。

また、昨年度は来街者のほとんどがマスクを着けていた。AIカメラは、マスクを着けている方の目元、耳元でおおよその年齢判断ができるが、約半数の方の年齢・性別が判断できなかった。判断できなかった方の多くは高齢者だと思われるが、今年度はマスクをしない方も増えると思われるため、より精度を高めた調査がしたい。来街者の年代が把握できれば、お土産を開発する際の参考にも

なり、会員にもフィードバックして、個店の魅力向上にもつながると考えている。

委員

AI カメラを活用した素晴らしい取組だと思う。調査は誰が行っているのか。

稲武商工会

専門の業者に依頼している。

委員

国道や道の駅だけでなく、商店街でも調査できると良い。

委員

チャレンジショップでは、どのような商品を販売していたのか。

稲武商工会

紅葉のシーズンには弁当を販売したり、喫茶店・飲食店の PR を行ったりしている。

チャレンジショップは道の駅の中にスペースを頂いて行っており、調理場がないことや道の駅で販売しているものは売れないことが課題となっている。

委員

名古屋の人にもギフトを送る機会があるため、稲武産ということがわかるような商品があると良い。個包装でお洒落なものがあるとうれしい。

道の駅の飲食はどこにでもあるようなものが多いので、稲武のオリジナリティある商品や味付けを提供できるといい。

商店街には営業しているかわからないお店があったので、PR を頑張れるといい。

委員

AI カメラは今のところ、道の駅に設置しただけか。

稲武商工会

昨年度は道の駅の店舗入り口に設置し、来店者を調査した。

委員

稲武地域を訪れた人の前後の回遊行動も把握できれば、豊田市の中山間部全

体の活性化の一助になると思う。非常に良い取り組みであるので、されに発展するよう頑張ってもらいたい。

委員

計画書の変更案では、事業の実施予定時期が令和4年度から令和8年度までとなっている。一方で、先ほどの説明では令和6年3月までと言っていたが、その辺はどう考えたらいいのか。

また、AIカメラは1台だけしか設置できないのか。1台だけだと十分に情報を収集するには少ないと感じる。例えば期間を区切ってAIカメラを移動させるなど、情報の密度が高いAIカメラの設置方法を考えながら実施できると良い。

稲武商工会

令和6年3月までとしたのは、昨年度実施できなかった調査を令和5年度中に実施し、今年度中に商店街の方向性を示したいという考えからである。その後、令和6、7年度もテナントミックスを進めるために必要な活動を続けていきたい。

また、AIカメラを複数台設置することや場所を変えて調査を行うことは有効だと思う。予算も考えながら、調査の内容を調整していきたい。

※審議

委員

当該事業のようにAIを活用した調査ができると、非常に精緻な数字が把握できたり、サンプリングではなく全数に近い状況がわかると思う。一方で、これまでもアンケートやサンプリング調査を実施していると思う。従来の調査と比較して、AIを活用した調査がどれくらい有用なのかや費用対効果はどうなのか。大学の研究で知見があれば、教えてほしい。

委員

我々は工学・理系を専門としていないが、どういう業者に委託するかで、かなり精度は変わると考えている。現状、従来の調査と比べて特徴付けができず、調査方法の過渡期であると思っている。従来の調査と組み合わせるような形で調査を実施することが有効ではないかと考えている。

委員

調査の結果をどこに活かすのか。テナントミックスに活かすという話があっ

たが、一般的なテナントミックスは一度に複数行う。一方、計画に挙げられている目標は「年間 1 店以上の創業者の確保を目指す」とあり、目標として適切な
のか疑問に思った。